

2/14 説教アウトライン「神の最善のご計画」

ローマ 8 : 18-30

吉村直紀

I. 「今の苦難」と「将来の希望」 (18 節)

「18 今の時の苦難は、やがて私たちに啓示される栄光に比べれば、取るに足りないとは私は考えます。」

皆様は最近“うめいた”ことがあるだろうか。“うめき”とは痛みや苦しみのため思わず低い声を出すという意味。私たちのたましいも贖い・救いを求めてうめいている。クリスチャンにも人生の悩みは尽きず、私たち神の子供もやがてくる将来の希望のため今は様々な痛みや悩み苦しみを経験する。この箇所の特徴は「今の時の苦しみ」と「将来の栄光」の明確な対比。キリスト・イエスと共に受ける将来神の栄光を考えれば、今の時の苦しみははるかに小さい。「将来私たちに啓示されようとしている栄光」とは将来約束された天国の希望。救いはキリストの再臨の時に完成すると約束されている。私たちはたとえ苦しみの中にあっても決して失望には終わらない事を理解し、将来の希望を持って待ち望むことができる。とはいえ、そこには様々なうめきがある。第1のうめきは①回復を求める被造物のうめき (19 - 22 節)、第2は②救いの完成を待ち望むクリスチャンのうめき (23 - 25 節)、第3は③とりなして下さる聖霊のうめき (26 - 27 節)。

II. 3つのうめき

① 被造物のうめき (19-21 節)

19 被造物は切実な思いで、神の子どもたちが現れるのを待ち望んでいます。

20 被造物が虚無に服したのは、自分の意志からではなく、服従させた方によるものなので、彼らには望みがあるのです。

21 被造物自体も、滅びの束縛から解放され、神の子どもたちの栄光の自由にあずかります。

22 私たちは知っています。被造物のすべては、今に至るまで、ともにうめき、ともに産みの苦しみをしています。

罪による墮落とそこからの回復・救いは人間だけでなく世界のすべて (全被造物) に関わる。再びキリストが来られ救いが完成する時、世界も滅びの束縛から解放される。それでは現在の世界は不完全か？ 山々などの大自然は美しく日本には美しい四季がある。見事な自然の摂理に私たちは神の創造の業を見る。しかし、自然は度々人間に大きく牙をむく。大津波や地震・洪水など様々な自然災害や疫病、新型コロナウイルスの猛威など。聖書によれば、この世界もまた罪の影響により調和を失ない「虚無に服して」いる。それは、最初の間アダムとエバの罪により、世界も神の呪いの下に置かれたため。創世記3章には「大地は、あなたのゆえにのろわれる」とある。創世記3:17-19。被造物の墮落が人間の罪によるものならば、逆に罪の贖いがあれば被造物も回復される。被造物もうめきながら回復の時を切望している。自然・被造物も本来は神によって造られた完全な調和と有効性を持っていたが、今は失ってしまい回復の時を求めてうめきの中にある。

② からだの贖いを待ち望む私たちのうめき (23-25 節)

23 それだけでなく、御霊の初穂をいただいている私たち自身も、子にさせていただくこと、すなわち、私たちのからだ贖われることを待ち望みながら、心の中でうめいています。

24 私たちは、この望みとともに救われたのです。目に見える望みは望みではありません。目で見ているものを、だれが望むでしょうか。

25 私たちはまだ見ていないものを望んでいるのですから、忍耐して待ち望みます。

回復を切望する世界同様、私たち人間も贖いの完成の時を待ち望む。私たちは、キリストを救い主として信じ聖霊をいただき神様の子どもとされる。立場を得てはいるが「からだの贖われる」＝完全な罪の影響からの解放はまだ先。私たちのたましいも贖いの時を求め“うめいて”いる。私たちが地上で生きる限りこの戦いは続き、時にはそれは非常に難しくなる。全ての“うめき”から解放され救いが完成するのがキリストの再臨の時。現在私たちクリスチャンの葛藤とは、内なる罪に対する戦いにおける忍耐という葛藤。キリストにあってすでに救われているにもかかわらず、救いが完成していない現実から生まれる苦悩と戦い。私たちはそのジレンマと向き合わざるを得ない。

将来の贖いの約束があるからこそ、私たちは喜んで忍耐し内なる罪との戦いにキリストにあって勝利を見出していくことが出来る。私たちは一生を通し、恵みにより造り変えられ贖いのプロセスを受けていく。ただ神の恵みとキリストの十字架の贖いのゆえ私たちは神の愛を受けとり前進することが出来る。私たちはこの地上での一步一步を決して失望に終わらず、将来に向けて歩いていく。

③ 聖霊のとりなしのうめき (26-27 節)

26 同様に御霊も、弱い私たちを助けてくださいます。私たちは、何をどう祈ったらよいか分からないのですが、御霊ご自身が、ことばにならないうめきをもって、とりなして下さるのです。

27 人間の心を探る方は、御霊の思いが何であるかを知っておられます。なぜなら、御霊は神のみこころにしたがって、聖徒たちのためにとりなして下さるからです。

完成を待ち望むうめきと葛藤の中で私たちの戦いは決して孤独ではない。“うめいて”いるのは世界や私たちだけではなく、イエス・キリストが遣わし私たちのうちに住む聖霊がとりなし手として共に“うめいて”いる。私たち自身どのように祈って良いのか分からない時も、「人間の心を探る方」である神は聖霊のとりなしの働きを通し、私たちの弱さ、痛み、重荷をよく理解して下さる。ヘブル4：15-16。大祭司キリストのとりなしが語られる。聖霊の助けと深い“うめき”により、私たちはどの様な時でも、神に祈り頼ることが出来る。私たち被造物である人間と、創造者である神は完全なかけ離れているが、聖霊のとりなしを受け、また人となられた大祭司イエスを通し、神は私たちの弱さ、痛み、重荷をも十分に受け取って下さる。現在もこの新型コロナウイルスの猛威にさらされ、傷ついた世界の真っ只中にイエス・キリストは共におられる。

Ⅲ. 神のご計画 (28 - 30 節) ～神の救いのご計画の確かさ～

28 神を愛する人たち、すなわち、神のご計画にしたがって召された人たちのためには、すべてのことがともに働いて益となることを、私たちは知っています。

29 神は、あらかじめ知っている人たちを、御子のかたちと同じ姿にあらかじめ定められたのです。それは、多くの兄弟たちの中で御子が長子となるためです。

30 神は、あらかじめ定めた人たちをさらに召し、召した人たちをさらに義と認め、義と認めた人たちにはさらに栄光をお与えになりました。」

聖霊の助けの中で、私たちはたとえ困難の中でも将来の希望を確信する。「神を愛する人たち」「神のご計画にしたがって召された人たち」は、神の選びによりキリストを救い主として信じるよう招かれた私たちの事。私たちの救いもただ神の側の選びと恵みによる。私たちは自分自身の力ではなくただ神の恵みにより救われた事を覚える。神の恵みは、私たちのクリスチャンライフにおける最善の「計画」という形でも表される。神は、私たち一人一人の最善の「計画」のため「すべてのことがともに働いて益となる」と約束されている。私たちの人生には良いことも、悪いことも、「どうしてこの様なことが私に？」という事も必ず起こる。しかし、最終的にその意味が知られる時、その“うめき”や葛藤が決して無駄ではなかったと知る。神は聖霊によって助けを送り、私たちを必ず救いの完成というゴールへ導いて下さる。このプロセスの中で悩み、悲しみ、喪失、病（やまい）や痛みなど様々な事柄を通して、私たちの人格は深くキリストに似た者へと練られていく。吉村家・次女実結の生後3ヶ月での手術の証。神の恵みと救いのご計画の確かさにすがり「すべての事が相働いて益となる」という信仰に生きていく事こそがクリスチャンである事の祝福・慰め・励まし。星野富弘さんのお話。

(まとめ) 神の私たちの人生へのご計画は、私たちにとり最善であり救いを完成して下さるもの。その過程に喜びや感謝と同時に、苦難・うめき・葛藤もある。それでも、決して無駄な事は何一つ起こらず、失望に終わる事は無くすべてはゴールに向け最も良い形で共に働いて作用すると聖書は約束する。私たちは主なる神の、深いご愛と憐れみの中で今日も生かされている。